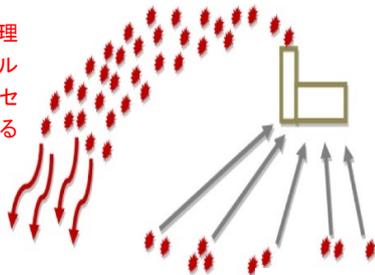


2.26 被ばく懇談会

焼却施設と原発事故前後の健康被害



廃棄物焼却処理
の排出エアロゾル
とともに放射性セ
シウムが舞い戻る



分散していたセシウム汚染

体内の放射性セシウムが多いほど、心電図異常、心臓疾患、突然死が増えることが知られています。

福島原発事故後、ホットスポットになった茨城県取手市の小中学生に心電図異常が多いことが明らかになりました。

杉並大気汚染測定連絡会の木村健一郎さんは、放射性セシウムを含む災害廃棄物を焼却した都県では子どもの心電図異常が増えたことを文科省の学校保健統計から明らかにしています。排煙に含まれる放射性セシウムが喘息・アレルギー性皮膚炎や心疾患を多発させているそうです。

木村さんは、福島原発事故以前から、廃棄物焼却施設は核実験による放射能を有害エアロゾルや重金属等とともに放出し、健康被害を発生させてきたと主張されています。2月26日の被ばく懇談会でじっくりお話を伺い、議論したいと思います。

被ばく懇談会

焼却施設と原発事故 前後の健康被害

講演：木村健一郎さん

(杉並大気汚染測定連絡会)

2月26日(日) 午後1時開場
1時15分～5時15分

文京区・アカデミー茗台・学習室A

地下鉄丸の内線「茗荷谷」駅下車、「春日通り」改札を出て右折、春日通りを右へ 徒歩8分、茗台中学校と同じビル隣の入口から7階へ

参加費：700円

申込先：anti-hibaku@ab.auone-net.jp

電話：090-3577-4844 (温品;ぬくしな)

